

**J** **apanese text**

2017年 春/夏号 日本語編

**デザイン**

**デザインラボ**

**文様**  
—— **地紋に宿る情緒**

文＝原研哉  
撮影＝西山 航

p.036

日本で鉄道切符を購入したなら、地紋に目を凝らしていただきたい。「有楽町▶東京 140円」などと書かれた文字ではなく、その背景である。おそらくは複製防止のために、鉄道各社が工夫を凝らし、簡単に再現できない細密文様を切符の背景に印刷したものと考えられる。いずれも鉄道の動的なダイナミズムを表現していて面白い。

今日の鉄道の改札口は自動改札となり、機械が判断する情報は切符の裏にある黒やこげ茶色の磁気データとなった。つまり地紋はすでに主たる役割を終えている。しかし切符としての風情を小さな紙片の上に醸し出す役割を密やかに担っている。写真左上のJRの地紋は、ロゴを中心として四方に広がる波紋が見立てられ、波紋の交わる交点に、民営化のために分割された6つの鉄道会社の頭文字が配されている。写真ではEの文字が見えるので、これはJR東日本（JREAST）の切符である。JR北海道のみ欧文ではなく「北」の文字があしらわれている。ご当地の思いがこういう細部に宿っているのである。

**切符の地紋**

鉄道切符の券面、文字の背景にびっしりと敷き詰められた柄のこと。黎明期の地紋の印刷用原版は大蔵省造幣局が製造し、金庫に入れて厳重に管理されていた。当時はインクも特殊で、インク消しを使用すると文字だけでなく地紋も消える仕組みになっていたという。

写真上段左より、

- ・JR東日本 八戸駅 70円小児入場券 2000年

- ・西武鉄道 中村橋から池袋経由 乗換券 1977年
- ・大井川鉄道 神尾⇄下泉間 2等切符 1969年
- ・国鉄 上郡駅 140円入場券 1987年

下段左より、

- ・京王帝都電鉄 新宿駅発 60円区間券 1976年
- ・富山地方鉄道 立山駅 150円入場券 1987年
- ・上信鉄道 下仁田⇄高崎ゆき 1080円 2010年

下：北近畿タンゴ鉄道 野田川駅発 160円区間 1999年

**原研哉（はら・けんや）**

デザイナー。「もの」のデザインと同様に「こと」のデザインを重視して活動中。ものの捉え方や価値観を更新するプロジェクトを多数手がける。長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、愛知万博の公式ポスターなど日本文化に深く根ざした仕事も多い。2002年より無印良品のアートディレクター。2017年にオープンするJapan House プロジェクト総合プロデューサー。著書に「デザインのデザイン」、「白」ほか多数。  
[www.ndc.co.jp/hara/](http://www.ndc.co.jp/hara/)

**建築**

—— **抽象絵画のなかに住む**

写真＝阿野太一  
文＝佐野由佳

p.038

万華鏡をのぞくような、不思議な景色だ。幾何学的に切り取られた線と色分けされた空間。しかしそのなかにあるのは、ごく普通の日常。特別な場所ではない。ここは、親子4人が暮らす住宅なのだ。

元は木造2階建ての賃貸アパートだった場所を、ひとつの家族が暮らすための一軒家に改装した。一見奇抜な内観とはうらはらな、整然と窓が並ぶ外観にその面影がある。かつては一部屋が約25㎡の住戸が、1、2階に各8戸ずつ並んでいた。設計を依頼された河内一泰<sup>こうちかずやす</sup>さんは、構造として重要な柱と梁だけ残して、分かれていた空間をひとつにつなぐことを考えた。しかしワンルームではない。「たくさん場所

があって、それらが見えているということを見せつけた。個室はつくり、開口部でつなぐ。1階、2階にまたいで切り取るように穴を開けると、居る場所によっていろんな景色が見える。そこを色分けすることで、抽象絵画のような、パッチワークのような、楽しい空間をつくりました。

奇抜なようでいて、壁はまっすぐなので家具なども置きやすく「意外に住みやすい」のだとか。子どもたちにも好評で、学校の友だちが遊びに来ると、もれなく大喜びするという。

(p.038)

子ども室の内側。コーナーに切り欠いた壁があることで、不思議な奥行きと、隠れ家的な楽しさが出現。大胆な構成に見えながら、小さな落ち着く場所がたくさんある。姿は隠れても、家全体が音や気配でつながっている。

外観。窓の位置や大きさは、既存のアパートのまま。上下同じ大きさの窓が整然と並ぶのは、同じ間取りの部屋が並んでいたから。元は「グリーンハイツ」という名で緑色に塗られていた壁を、シンプルな白に塗り替えた。カラフルな内部との対比も印象的。

(p.039)

2階から1階のリビングを見下ろす。切り取られた開口部の隙間から、2階の寝室、アルコーブのようなスペース、1階の子ども室などがちらりと見える。色分けは、「隣り合う空間を同色にしない」という決まりをつくった。壁はなくても、色が場所を区切る役目も果たし、より空間のバリエーションが広がる。

## プロダクツ —— 削り屑から花が咲く

撮影＝西山 航  
文＝編集部

p.040

鉛筆を作るには、通常多くの木材ロスが発生するが、この色鉛筆はその点全く新しい。軸の部分は廃棄古紙を主原料とし

た Made in Japan の新素材を使用。プラスチックと同じ成形方法で作られ、素材のロスが出ない。それだけではない。削り屑がなんと花びらの形になる。秘密は軸の色と形。外側だけが塗料の膜で覆われた通常の鉛筆とは違い、中心部まで同色で染められた軸が、それぞれ日本らしい花や葉の形をかたどり、削った時に最適なフォルムになるよう計算されているのだ。その軸形ゆえ、握りやすく滑りにくいという利点まである。

芯には国産の上質な色芯を用い、子供から大人まで誰に贈っても喜ばれるが、それ以上に自分で使って心が華やぐ商品である。通常の色鉛筆よりははやや太いので、太目軸用の芯削りを使用したい。

作る時のロスもなく、使用の際に出る削り屑すら人に見せたくないクオリティ。どこまでもエコで、美しい製品ができあがった。

左から、桜色、紅梅色、桔梗色、たんぽぽ 蒲公英色、ときわみどり 常磐緑色の全5色。

### 花色鉛筆 (はないろえんぴつ)

大友敏弘さんデザイン。2015年から開発を始め、今年3月に一般発売開始。5色 1800円。

株式会社 TRINUS

東京都千代田区内神田 1-1-5 ベンチャー KANDA 407

trinus.jp/developments/1

## プロダクツ —— 新技術が開くデザインの可能性

文＝編集部

p.041

電子書籍端末などで目にする電子ペーパー。薄く、軽く、曲げられるこの素材を腕時計型にすることによって、日々の気分で柄を選択できる時計 FES Watch がソニーから誕生した。同技術を応用して、表情を変えられるバッグが ISSEY MIYAKE

のランウェイで使用され、話題を攫ったのが昨年秋のこと。電子ペーパーに空けた穴に紐状の革を通したそのバッグが今年4月、ようやく一般発売される。EB (Electronic Bag) と名づけられたそれは、ボタンを押すことで黒から白のグラデーションに変わるほか、持ち歩く動きに合わせて色が変化するオートモードも搭載。

当初白か黒の表現しかできないと思われていた電子ペーパーは、ISSEY MIYAKEと素材の共同開発をする過程でグラデーションなど奥行きのある表現が可能になり、さらに魅力が増した。FES Watchの進化系、プリセット以外の柄の追加購入や作成が可能なFES Watch Uも開発中で、電子技術が切り開くデザインの未来から、ますます目が離せない。

(左)

#### EB (Electronic Bag) (黒・白)

4月初旬より一部直営店舗にて販売予定 12万円

[www.isseymiyake.com](http://www.isseymiyake.com)

©2016 ISSEY MIYAKE INC.

(右)

#### FES Watch (黒・白)

2万7500円 (国内価格)

[fashion-entertainments.com](http://fashion-entertainments.com)

#### FES Watch U

発売時期未定

[first-flight.sony.com/pj/feswatch-u](http://first-flight.sony.com/pj/feswatch-u)

©Sony Corporation

り、有害物質を吸着したり、消臭効果を発揮したりと、驚くほどの多機能ぶり。なかでも備長炭発祥の地でもある紀州(和歌山)の炭はその質の高さから、18世紀の昔よりトップブランドとして君臨し続けている。そんな紀州備長炭を使ったハイセンスな炭小物を扱うのが東京・銀座に店舗を構える掌(たなごころ)。自然の造形を美しくまとめた炭のインテリアのほか、備長炭をそのまま磨いて独特な光沢を出したアクセサリーも販売。炭の遠赤外線効果で、身につけた場所がほのかに温かく、身も心も浄化される感覚を味わえる。炭の量り売りも行っており、好きな分量と形を選んで自分だけのインテリアを作るのもおすすめだ。

#### 銀座紀州備長炭ショップ 掌 (たなごころ)

東京都中央区銀座 1-8-15 2F

Tel. 03-3538-6555

[www.tanagokoro.com](http://www.tanagokoro.com)

kohiki / high (左) 1万4000円、kohiki / round (右) 1万6000円

ロングネックレス (左) 1万2000円、ペンダントネックレス (右) 5600円

## プロダクツ

### —— 炭の浄化作用で家も心も美しく

撮影＝西山 航

文＝編集部

p.041

国産の樫を高温で焼いて作る木炭、備長炭。炭焼き料理に使って美味しいのはもちろんのこと、部屋の湿度を調節した